

本願寺 御歴代門主シリーズ

その九

本願寺第十代宗主

証如(しょうによ)上人(一五一六～一五五三年)

証如上人は永正十三年(一五一六)、第九代実如(じつによ)宗主の(子息の円如(えんにょ)上人の(息男として)誕生されました。

祖父である第九代実如宗主(往生の後を受け、本願寺第十世の法灯を)継職されましたが、父の円如上人が(早世であったため、上人はわずか十歳で継職することとなり、母である慶寿院らの補佐のもとに宗務を執られることとなりました。

当時の世相は戦国の最中であり、天文元年(一五三二)、上人が十七歳の時に山科本願寺は焼討ちにあい、翌年、本願寺の御坊を大坂へ移されました。その後、両御堂をはじめとする諸堂や門が整えられ、一派本山としての体裁が整えられました。

この大坂本願寺ではとくに警護に配慮し、堀や塀が嚴重にめぐらされ、近畿在住の門徒が警備のために順番で上山し番衆を努めました。

また、堀内の寺地には寺内町が繁栄し、後に寺内町は十町余に分かれて数千軒から構成されるほどに発展しました。



本願寺第十代宗主 証如(しょうによ)上人

また、証如上人時代には、加賀(石川県)の門徒領国の内紛のほか、大和(奈良県)、越前(福井県)、畿内などで一揆が頻発したので、宗務の多くは戦国期の争乱に関連した問題の対応に費やされました。他面では、朝廷と接近することによって本願寺の社会的地位の向上に努められました。

その他、天文五年(一五三六)、証如上人二十歳の正月から同二十三年八月二日までしたためられた『天文御日記』は、我が宗派のみならず、日本史上における当時の貴重な史料として重要文化財になっています。

証如上人の門主在職は二十九年に及びましたが、天文二十三年(一五五三)八月十三日、三十九歳の若さで(往生されました。

※参考文献 福岡光起著／

「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「護持会報恩講」(善教寺本堂)

十月二十六日(土) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 藤井聡之師(安佐北区安佐町教雲寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要(善教寺本堂)

十一月十六日(土) 午後一時半

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「報恩講」(善教寺本堂)

十二月 二日(月) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 池尻智道師(熊本県蓮照寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

*お接待当番地区 井之邑地区



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール zenkyo@otera.or.jp